

いちごいちえ 一期一会

小千谷市立総合支援学校 進路指導部

後期の現場実習が始まります

高等部 1 年生にとって初めての現場実習が始まります。6 月の校内実習で身に付けた力、普段の学習活動で身に付けた力、全ての力を出してやり遂げてきてほしいです。2 年生、3 年生にはこれまで身に付けた力を発揮し、成長した姿を見せて欲しいです。

さて、現場実習はどのような目的で行われるのでしょうか。その子にあった「進路先」を見つけるためのものであることは言うまでもありません。ですが、それだけではありません。学校と違う環境の中で、仕事を通して「働く充実感」を学び、「働く力」を育てていくことも大きな目的です。そのためには、少し厳しい目標を設定することが重要になります。厳しすぎれば、意欲が削がれ力は身に付かないでしょう。緩ければ充実感を得たり、働く力を高めたりすることは見込めないでしょう。少し厳しいが重要なのです。このような目標で実習することで成長し、最適な「進路先」を考えることができるようになります。高等部の 3 年間はあっという間に過ぎます。不安になることもあります。でも焦らず、一つ一つ成長させていくことが、充実した生活やそれを得るための「進路先」を見つける鍵となります。

とはいえ、少し厳しい目標は、本人にとっては「大変」と感じるものです。そこで保護者の皆様のサポートが必要になります。実習先から帰宅したら「お疲れ様」、「よく頑張ってるね」といった声かけをしてもらえると、子どもは頑張ります。また、実習に関して以下の点についてもお願いいたします。

ご家庭へのお願い

(1) 実習前【生徒が意欲的に取り組めるように】

○実習の心構え（身だしなみ、トイレなどの身辺処理やあいさつ、返事などの言葉を再確認）

○実習に必要な持ち物等の準備

○勤務時間等の時間に対する自覚

（規則正しい生活リズム・時間を守る意識）

○実習先までの通勤練習（安全に通えるように）

○実習先への事前挨拶

実習先への受け入れのお礼ということで、ご挨拶をお願いしています。

当校では、実習先によって、次のようにしています。

- ・福祉事業所・・・事前に保護者様より、ご挨拶に伺ってください。事前に行くことが無理であれば、実習期間中に見学も兼ねて、実習先に出向いてご挨拶いただくことをお勧めします。



・企業等・・・本人、保護者で、一緒にご挨拶に伺ってください。

その際、学校職員も同行いたします。企業側は、実習の受け入れに慣れていない場合もあり、スムーズな実習の受け入れを進めるため学校が間に入り、本人との顔合わせも兼ねて挨拶という形をとっています。

(2) 実習中【家庭での憩い、体力の回復、明日への準備を】



○実習状況の把握（生徒の様子、会話、日誌の確認等）

○清潔な身だしなみ

（入浴、洗髪、整髪、爪切り、洗顔、歯磨き、きれいな靴下、きれいなハンカチ、ティッシュ、きれいなタオル）

○規則正しい生活リズム（早寝、早起き、しっかり朝食、時間に余裕をもって出勤）

○明日への意欲づけ（明るい会話、たっぷり睡眠、心と身体のリフレッシュ）

○実習日誌の記入

（保護者の欄に一言、記入をお願いします。お世話になっているという感謝の気持ちがあると、実習先にもその気持ちは伝わります。気持ちよく実習に取り組んでいただけたと思います。）

○欠勤、遅刻、帰宅が遅い場合など迷わず学校〈担任・進路担当〉への連絡

（様子がおかしい？と感じたら、すぐに連絡、相談を！）

(3) 実習後

【実習のがんばりをほめ、反省をもとに具体的な目標をもたせた生活へ】

○実習についてのアンケートにご協力をお願いします。

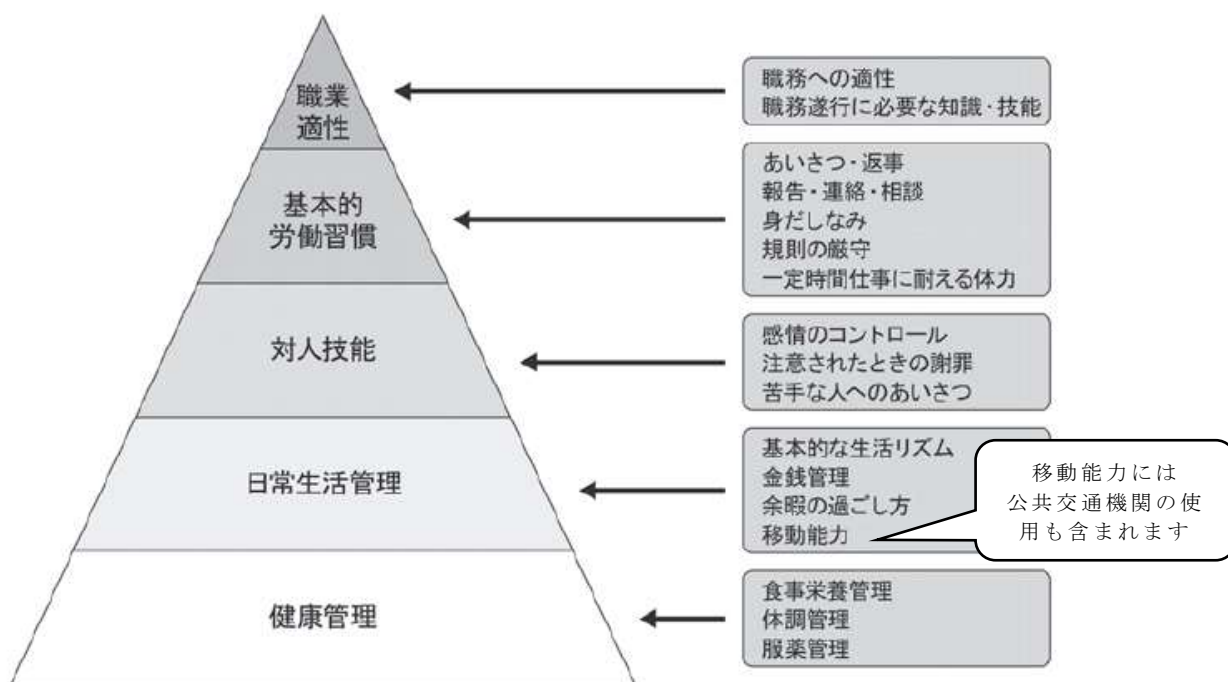
保護者の皆様のサポートがあって初めて実習は成立します。お忙しい中、本当に申し訳ありません。よろしくお願いいたします。

第3回進路教室を終えて

9月27日に第3回の進路教室を行いました。お忙しい中参加くださった皆様、ありがとうございました。今回は「一般就労を考える」をテーマに、ハローワーク長岡の専門援助部門（障がい者の就労の専門部門）の齋藤様から来ていただき、お話いただきました。障がい者雇用の制度から、一般就労に必要な力まで幅広く教えていただきました。その中で、職業準備生のピラミッドについてのお話が出ました。これは安定した職業生活を継続する上で必要とされる個人の要件について示した物です（進路教室で齋藤様から提示された物と若干異なります。平成30年度就業支援ハンドブックから抜粋しました）。このピラミッドが表す重要なこととして、「健康管理」「日常生活の管理」が土台となっているということです（ちなみに健康管理の中には自分の障がいに対する理解も含みます）。土台が太く強いとその上に多くの物をのせていくことができます。しかし、土台が貧弱だと、どんなにその上にのせようともピラミッド自体が崩れていきます。この土台を作り上げるのは早ければ早いほど（小学部や中学部から）良いです。といっても難しく考えず、「健康管理」であれば食事の好き嫌いを少なくしたり、運動（散歩でも良いです）を習慣にしていったり、薬を服用しているようであれば嫌がらず

飲めるようになるから始めると良いです。また自分の苦手や得意な部分を知るということも重要です。「日常生活の管理」であれば、早寝早起きの習慣づくり、生活の中で出来ることを増やす、交通ルールを守った安全な歩行（これができるれば次は公共交通の利用）となります。大事なポイントとしては、これらのことが自分で出来るようにしていくことです。

この土台に、失敗したときに「すみませんでした」や何かしてもらったときに「ありがとうございました」が言える、感情のコントロールができる、自分から挨拶ができるといった「対人技能」が身につけば高等部に入ったときに十分な力が発揮できます。ただし、これらのことは学校だけでは身につけません。ご家庭の協力があって初めて身に付いていくものです。今後ともご協力いただく場面が多いかと思いますがよろしくお願いたします。



出典) 相澤欽一: "資料3 ジョブガイダンスの実際例", 現場で使える精神障害者雇用支援ハンドブック, 金剛出版, 2007. P198 を基に一部変更して引用

図3 職業準備性のピラミッド

次回の進路教室は、12月に「障害基礎年金」をテーマにお話します。高等部卒業後20歳になってから、ほぼ全ての生徒が必要とする大変重要な年金です。興味のある方は是非ご参加ください。

お問い合わせ等ありましたら下記までご連絡ください。

小千谷市立総合支援学校
 担当：進路指導主事 渡邊 憲将
 TEL 0258-82-1878 FAX 0258-82-1889